

# 平成27年第12回函館市教育委員会定例会 会議録

- 1 日 時 平成27年12月22日(火) 午後1時30分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席委員 橋田委員長, 小葉松委員, 佐藤委員, 須田委員, 山本委員
- 4 欠席委員
- 5 事務局 川村生涯学習部長, 小山学校教育部長, 佐藤生涯学習部次長,  
對馬生涯学習部次長, 阿部管理課長, 齋藤学校教育部参事
- 6 傍聴者 なし
- 7 付議事項
- 日程第1 議案第1号 平成28年度教育委員会関係予算要求に関し, 議決を求めること  
について
- 日程第2 議案第2号 函館市スポーツ振興審議会委員の委嘱に関し, 議決を求めること  
について
- 日程第3 協議事項 コミュニティ・スクールおよび小中一貫教育について

## ■橋田委員長

- 開会宣言 午後1時30分
- 議事録署名人に, 小葉松委員, 佐藤委員を選任。
- 本日の日程のうち, 日程第1, 議案第1号「平成28年度教育委員会関係予算要求に関し, 議決を求めることについて」を「秘密会」としたいがいかがか。
- 異議がないので, 秘密会とさせていただきます。
  
- それでは, 日程第1, 議案第1号「平成28年度教育委員会関係予算要求に関し, 議決を求めることについて」を諮る。

(秘密会につき, 会議録省略)

## ■橋田委員長

- 議案第1号については, 原案のとおり決定する。
- 次に, 日程第2, 議案第2号「函館市スポーツ振興審議会委員の委嘱に関し, 議決を求めることについて」を諮る。

## ■生涯学習部長

- 議案第2号, 「函館市スポーツ振興審議会委員の委嘱に関し, 議決を求めることについて」説明する。
- 委員の任期満了に伴い, 近藤 健氏ほか9名を平成27年12月22日から平成29年12月21日まで委嘱しようとするものである。

■橋田委員長

- 議案第2号について何かあるか。

■小葉松委員

- 公募委員の年齢制限はないのか。

■生涯学習部長

- 特に制限はない。

■小葉松委員

- 年齢構成をもう少し考えた方がよいと思う。

■橋田委員長

- 議案第2号は、原案のとおり可決する。
- 次に、協議事項、「コミュニティ・スクールおよび小中一貫教育について」協議を行う。事務局に資料の説明を求める。

■齋藤学校教育部参事

- 前回の定例会で要望があった、コミュニティ・スクールおよび小中一貫教育の具体的な事例について説明する。
- まず、コミュニティ・スクールの実践例について説明する。
- 文部科学省でとりまとめた事例集の中から、実際に学校運営協議会で取り上げられている事項とそれによって実現したことを項目別に記載している。
- 内容は、非常に多岐に渡っており、今後本市のコミュニティ・スクールの取り組みとして何を取り上げるべきかの参考になるものと思う。
- これらの中から、生徒指導上の課題に関することを取り上げた京都市立洛西中学校と福岡県春日市立春日西中学校の取り組みを紹介する。洛西中学校については、学校運営協議会において、人間力の向上を通じて、生徒指導における荒れを未然に防ぐことが確認され、具体的な体験活動を企画・立案し、地域ボランティアの指導のもと取り組んでいる。春日西中学校については、中学校区内のコミュニティ・スクール間で生徒指導上の課題等を共有し、その解決に向けて協力し取り組んでいる。運営組織については、サポート地域本部を設置し、三つの柱、学習・安全・環境を掲げ、その支援を充実させる構想となっている。コミュニティ・スクールの運営にあたっては、新たな学校づくりに、学校、家庭、地域の連携をどう生かしていくかということが鍵になるものと思われる。
- 今後、五稜郭中学校への導入に向けては、統合準備委員会において、これまで検討してきた統合校が目指す学校づくりに、学校運営協議会を効果的に活用できるよう早急に協議のうえ、進めていきたいと思う。
- 次に、小中一貫教育についての全国の状況と具体的導入例について説明する。
- まず、小中一貫教育を施設類型別に分けると大きく4つに分けられる。その中で、9年間の学年段階をどのように区切っているかについては、従来の「6-3」を維持している取り組みが7割に達している。また、小中移行期の小5から中1をまとめた「4-3-2」の区切りを採用しているのは、全体の4分の1ほどにとどまるが、施設一体型に限っては、約半数がこの「4-3-2」という学年段階を採用している。
- 小中一貫教育を採用している中学校規模は、6学級から18学級の規模の学校が7割ほどになるが、施設一体型に限っていえば、5学級以下の規模が7割を越えるということとで、比較的小規模の学校での取り組みとなっている。中教審が示す小中一貫教育の求めら

れる要件を満たす学校は全体の25.6%にとどまっている。また、函館市規模の自治体で小中一貫教育を導入しているのは、約25%である。成果については、ほとんどの学校で「ある」という自己評価が得られている。6ページ以降は、先進的な取り組みの事例として、同じ中核市である奈良市の取組事例のうち施設一体型の富雄第三小中学校の例を紹介している。なお、奈良市ではこうした施設一体型2校のほか、20中学校区において、連携型の小中一貫教育の取り組みを実施しており、函館市での今後の導入において参考となるものと思われる。

■橋田委員長

- ただいまの説明を受けて、何かあるか。

■小葉松委員

- 施設一体型では、卒業、入学はどのように扱うのか。例えば、亀尾小中学校はどのようにしているのか。

■齋藤学校教育部参事

- 来年度から法制化され、義務教育学校の設置が可能となるものであり、どのように扱うかは今後の調査となる。

■学校教育部長

- 亀尾小中学校については、小中併置校であるため、小学校、中学校の区切りで卒業式、入学式を行っている。

■佐藤委員

- 学年段階が「4-3-2」となった場合の教員の配置はどのようになるのか。

■学校教育部長

- 義務教育学校の教員の配置については、小中両方の免許を持っている教員が配置されることになっている。

■小葉松委員

- 大多数の教員は小中の免許を両方持っているのか。

■学校教育部長

- 小中両方の免許を持っている教員は多くはない。どちらかという、中学校と高校の免許を両方持っている教員が多いのではないか。

■小葉松委員

- 小中一貫教育の導入にあたっては、先生方の免許保有状況の把握について並行して行う必要がある。

■佐藤委員

- 子どもたちにどのような影響を与えるか、慎重に検討する必要があるのではないか。

■山本委員

- 施設一体型は、市内でも限られた地域でのみの実施になると想定している。メインは、

連携型の小中一貫教育となる。中学校区をひとつのまとまりにとらえて、区域内の小中がそれぞれ連携していくということは、学校再編を進めるうえで関連づけて行うことは可能だと思ふ。

■橋田委員長

- 資料に各自で目を通して、疑問点があった場合には再度協議を行うということで、本日はこれくらいにしたいが、いかがか。

(意見なし)

- それでは、これで協議事項を終了する。

■阿部管理課長

- 来月の定例会の協議事項のテーマについては、コミュニティ・スクールについての議論を継続するというのでよろしいか。4月に開校する五稜郭中学校への導入を予定しており、1月、2月の定例会で具体的にどのようなことを行うかについて議論を深めていただきたい。

■橋田委員長

- ただいまの提案について何かあるか。

(異議なし)

- それでは、次回も引き続きコミュニティ・スクールについて協議をすることとする。

■須田委員

- 函館市としてどのようなことに重点を置いて取り組んでいくかを議論すべき。導入する目的を明確にしたい。

■阿部管理課長

- それでは、事務局から函館市におけるコミュニティ・スクールの導入において、重点的な取り組み事項等の案をまとめさせていただきたい。

■橋田委員長

- それでは、そのように決定する。

■終了宣言

- 午後3時30分

議事録署名人 小葉松 洋 子

〃 佐 藤 敬 一

調製者庶務係 若 崎 友 哉